# 山村の子供たちが挨拶をすることに感激

全国山村振興連盟事務局長　實重重実

５月１８日・１９日に古口達也栃木県茂木町長（当時副会長）のお世話により全国山村振興連盟の副会長による茂木町視察及び意見交換会が行われました。茂木町には様々な観光地があるのですが、当日はむしろそれを抑えるようにして、山村振興施策に関する施設を紹介いただきました。家庭用生ごみ・家畜排泄物・落ち葉・間伐材などを利用する有機肥料製造施設、町有林の木材を利用した大きな図書館を核とする文化交流施設、町有林の木材を利用した現代建築による木造の中学校などを視察させていただきました。

そうした取組みも大変参考になったのですが、私が何よりも感激したのは、中学校をはじめとして、あちこちで子供たちが大きな声で一斉に挨拶をすることでした。そして古口町長と軽口で冗談を言い合っている姿には、驚きました。子供たちが大変礼儀正しいだけでなく、見知らぬ大人の訪問客たちに対して声を揃えて挨拶してくれます。都会ではまず見られなくなった光景でしょう。

私の住んでいる東京都区部では、住宅街はもちろん同じマンションの中であっても子供たちが挨拶をしてくれるようなことはありません。マンションによっては「挨拶しない」というルールを設けているところもあるそうです。私の住んでいるマンションでも、住民同士は正面からすれ違うときに頭を下げたりする程度で、きちんと挨拶するようなことはありません。中には目をそらしたり顔を背けたりして、なるべく挨拶する状況にならないように振る舞う人もいます。島根県出身で公務員宿舎生活が長かった私としては、奇異に思うのですが、マンションでは親がこのようですから、子供たちが挨拶するはずはありません。

むしろ安全や治安の観点から、「見知らぬ大人に声をかけられても、危ないから知らん顔してるように」と親から言われているのかもしれません。私の住まいの近所に小学校があるのですが、雇われた高齢者が学校の前で見張っていて、とても子供に声をかけるようなことはできません。都会ではすでに地域社会が崩壊しているどころか、消滅していると言っても良いのかもしれません。

こうした日常生活を送っているので、茂木町の中学生が声をかけてくれることに大変驚いたわけです。古口町長をはじめとする茂木町の大人たちの態度が、自然に子供たちに反映しているのでしょう。

山村には、こうした濃密な地域社会が存在します。おそらく集落というものが成立した室町時代の頃から集落の自治というものが存在し、集落内部で助け合わなければ外敵や災害に対抗できないといった観点が強かったものと思いますが、その美風が山村では今も色濃く残されているのではないかと思います。こうした日本古来の美しい伝統を守っていくためにも、山村の地域社会を維持していくことが重要であると改めて痛感した次第です。